

東北ブナ紀行（72）

奥田 博

宮城県のブナ林は、金華山と南部の阿武隈山地以外、多くが奥羽山脈に集中している。北から栗駒山、須金岳・禿岳などの鬼首高原、船形連峰、二口山塊、蔵王連峰、合わせて20山程度と東北六県では最も少ない。

109) 北泉ヶ岳 1253m



山頂が近くなって、登りの辛さを忘れさせるブナ

仙台市民には馴染みの深い泉ヶ岳。冬でも山頂を訪れる登山者が多い。その北1kmに北泉ヶ岳がそびえる。泉ヶ岳は陽、北泉ヶ岳は陰、そんな例えのように静かで地味な山頂である。

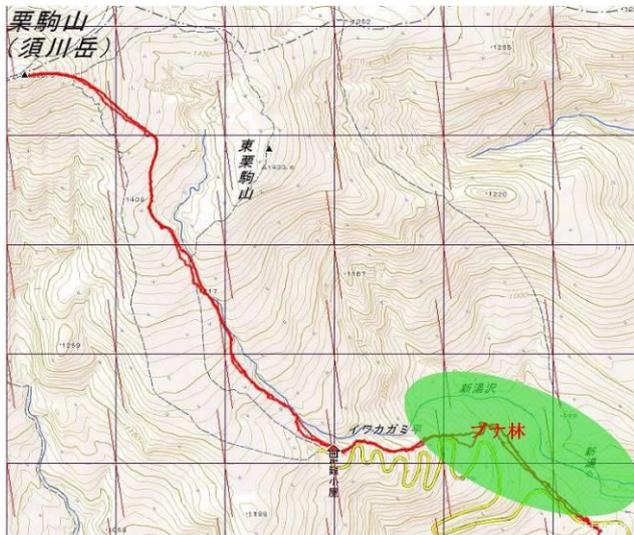
冬はスキー場のリフトを使うと標高 900mまで一気に運ばれる。スキー場から北泉ヶ岳と泉ヶ岳に挟まれた広い谷の中に入ると静寂が周囲を包む。ブナ、ミズナラ、サワグルミ、カエデ類など種々の木々混在している。ウサギやテン、タヌキなどの足跡が雪の上に続くので、動物には棲みやすいのだろう。谷から尾根に上がる 100m余の急な斜面を登ると、ブナの森が一気に広がる。

尾根を東に向かえば泉ヶ岳だが、見事にブナの森はない。一方、北に向かう尾根は山頂までブナに覆われる。特にコル付近は穏やかな大地にブナの森が広がって、心休まる場所だ。コル付近の登山道脇には「四本桂」と呼ばれる見事なカツラの太木が主のように我々登山者を見下ろしていた。

コースタイム:スキー場終点(1時間 10分)尾根(1時間)山頂(1時間 30分)登山口

110) 栗駒山 1627m

イワカガミ平から栗駒山へのコースにブナ林はない。春先、イワカガミ平への除雪を終えるまでは、下から歩くことになる。その積雪期コースを歩く時のみブナに出合える。積雪期に訪れる者、限定の森だ。



古い看板を付けたブナの大木

昔、いこいの村が建っていた場所で、道路はゲートが閉じている。ここからスキーを着けて歩き出す。道路を外れて森に入ると、太いブナに1という看板が括り付けられている。まだ道路のない時代から、ここは冬山コースだったのだ。クラシックコースだった証に、古い看板も見られた。大木も多く残るが、イワカガミ平からの冬ルートは沢の中をたどり、一枚バーンの斜面は山頂まで続く。

コースタイム:登山口(1時間 10分)イワカガミ平(2時間 10分)山頂(1時間 30分)登山口